

「明石海峡大橋海上ウォーク」

参加者募集中心

本四道路活用イベント実行委員会は、普段は立ち入ることができない明石海峡大橋の内部を体験できる「明石海峡大橋海上ウォーク」を開催する。

の海上ウォーク
【所要時間】約2時間30分
【開催日】平成27年11月7日(土)、8日(日)
【参加条件】小学4年生以上の方(小・中学生は保護者の同伴が必要)
【自己責任】4km以上の歩行、高さ40m程度の階段の昇降ができる方
▽高所及び閉所恐怖症でない方
▽トイレを2時間程度我慢できる方
【募集人数】2日間合計 2,400人
(1日1,200人)
【参加費】大人2,500円/人 中学生以下1,500円/人
※ハガキの場合は消印有効

【応募・問い合わせ先】
〒651-2117
神戸市西区北別府5丁目30-1
ダスキンレントオール神戸西イベントセンター内
明石海峡大橋 海上ウォーク受付係
TEL 078-975-7455(直通)
(平日9:00~17:00)
URL <http://www.ddk-web.jp/kaiyo-walk/>

9月の大型連休期間の
高速道路渋滞予測

下り線は9月20日(日)
上り線は9月22日(火)
がピークに！

高速道路各社等は、平成27年9月19日(土)～23日(水)の大型連休期間の渋滞が多く発生すると予測している。出発時間を渋滞予測を公表した。

【応募方法】
市、(公財)兵庫県園芸・公園協会、(一財)淡路島くじガキ、または、ホームページにて
詳しくは、チラシ、または、ホームページを。
【主催】
本四道路活用イベント実行委員会(兵庫県、徳島県、石海峽大橋ライトアップの特別点灯を実施する予定。南あわじ市、淡路市、鳴門

【お知らせ】
11月7日(土)は、18時から19時30分までの間、明相模湖IC付近・稲城IC石海峽大橋ライトアップの間45分
▽中国自動車道(下り線)

ピークが予想される時間帯の前後にすらすらなど、渋滞を避けた分散利用を。
【特に長い渋滞の発生予測】
▽中央自動車道(下り線)
9月20日(日) 6時頃
相模湖IC付近・稲城IC石海峽大橋ライトアップの間45分
▽関越自動車道(上り線)
9月22日(火) 16時頃
高坂SA付近・高崎JCT
▽東名高速道路(上り線)
9月22日(火) 17時頃
大和TN付近・御殿場IC
▽九州自動車道(上り線)
9月22日(火) 17時頃
広川IC付近・菊水IC
久留米IC/30km/1時間30分

《詳しい渋滞情報はホームページで》
日本道路交通情報センター
<http://www.jartic.or.jp/>
NEXCO東日本
<http://www.driveplaza.com/>
NEXCO中日本
<http://www.c-nexco.co.jp/traffic/>
NEXCO西日本
<http://www.w-nexco.co.jp/>
首都高速
<http://www.shutoko.jp/>
阪神高速
<http://www.hanshin-exp.co.jp/>
JB本四高速
<http://www.jb-honshi.co.jp/>

平成27年10月27日～28日
第31回日本道路会議開催
～安全で活力ある社会のために～
<http://www.road.or.jp/conference>

日本道路会議は、道路に関係する方々にとって、役立つ情報と機会を提供する場である。現場で役立つ工事・設計ノウハウ、先進事例、商談やビジネスにつながる情報が入手できる。関係者各位の参加を。
【開催概要】
《日程》
平成27年10月27日(火)、28日(水)
《会場》
都市センターホテル
東京都千代田区平河町2-4-1
《今後の道路政策のあり方についての展望》
▽10月27日10:10～10:40
基調講演 石田東生氏(筑波大学大学院教授。専門は、交通・国土・都市計画。国土交通省社会資本整備審議会の臨時委員をはじめ、国や地方自治体の多くの委員会等で委員を務める。)
▽10月27日10:45～12:30
《安全運転》
交通混雑期は事故が多発するため、高速道路を利用の際は「全席シートベルトの着用」と「こまめな・早めの休憩」などの心掛けを。
《休憩施設等での混雑対策等》
渋滞予測や過去の交通混雑期(GW、お盆、年末年始等)の状況を踏まえて、特に激しい混雑を予測している期間に、休憩施設等での駐車場整理員の配置、臨時トイレの設置、大型車駐車を確保などの混雑対策を実施する予定。

大規模更新事業

始まる

われわれの生活やあらゆる社会経済活動は、道路、鉄道、空港等の交通インフラや水道、電気、ガス等の生活インフラなど、重要な社会基盤によって支えられている。一方、日本経済の根幹を支える社会インフラは、昨今、急速な老朽化・高齢化が進行しており、早急な対応が求められている。こうした中、高速道路ではいち早く首都高速道路が老朽化の進んだ路線における大規模更新事業に着手することになった。

首都高速道路は、1964年開催の東京オリンピックの2年前に最初の開通(京橋～芝浦間4.5km)を迎えており、その後建設は、東京オリンピック開催に向けて急ピッチで進められ、都心から羽田空港を結ぶ路線など32.8kmがオリンピック開催直前の8月になって漸く供用にこぎつけた。この時は、首都高速道路に限らず、新たなインフラが次々と整備されていき、今日の社会基盤の礎となった。現在、首都高速道路は総延長310.7km、供用から40年以上経過した構造物は約35%に達するなど、高齢化が進むとともに、

1日の車両通行台数は約100万台にも上り、その約10%を大型車が占めるなど、その過酷な使用環境から構造物に大きな負荷がかかっている状況にある。加えて、建設当初はオリンピックに間に合わせるという社会的な要請から、建設に当たっては、用地買収の必要がない公共用地(道路、河川等)を

を経て、翌2013年12月に、大規模更新(3路線、5か所、約8km)及び大規模修繕(約55km)計画の策定を行った。また、2014年に道路整備特別措置法が一部改正され、料金徴収期間が15年間延長されたことで、大規模更新・大規模修繕の財源を確保することができた。

《詳細・問合先》
公益社団法人
日本道路協会
第31回日本道路会議事務局
〒100-8955
東京都千代田区霞が関3-3-1
TEL 03-3581-2211
E-mail dourokagi@road.or.jp
詳細はホームページで。

《展示・広告ブース》
「道の駅」(ITS関連)のパネル及びブースによる展示を行う。また、各企業の展示ブースも設置